

大宮工業高校人づくりコンソーシアム会員様

(現 大宮科学技術高校人づくりコンソーシアム)

2025年度

大宮工業高校人づくりコンソーシアム活動報告

2026年5月10日



埼玉県立大宮工業高等学校

大宮工業高校人づくりコンソーシアム

はじめに

2025年度の本コンソーシアムの活動につきましてご報告いたします。

2025年度は、大宮工業高校の創立100周年行事、新校(大宮科学技術高校)設立のための諸準備(新校舎の建設、既存校舎の改装、県教委等との連携、新校のカリキュラム作成等々)と学校側は多忙を極めました。前年度まで在籍した校長、教頭、事務部長、主幹教諭といった幹部教職員5名のうち4名が異動した状況で、着任早々の幹部教職員の皆様が並々ならぬご苦勞をされ、成功裏にやり遂げたことに対して心から敬意を表したいと思えます。そうした学校側の状況も勘案して、本コンソーシアムも学校側の負担の少ない範囲内での実施となり、計画していた行事の一部が予定通りに実施できなかつた面もありましたが、会員参加の行事や会員企業様による協働授業に加え、計画外の行事としてPTA会員向けの行事を実施することができました。

本年度からは、大宮科学技術高校として、次代の先端技術者を育成する専門高校としてスタートします。

AIの進展に伴い、ここ数年、科学技術は著しく進化しています。今後は進化のスピードをより一層加速して、産業構造も大きく変化していくことが予想されます。高校生活3年間の間だけでも大きく変化し続けます。

就職・進学を問わず、これからの時代に社会に出て50年以上にわたり働く若人が、実社会を知らずに3年間を過ごすのではなく、常に変化する時代を肌で感じ、その中で自分のキャリアを意識し、そのために今、何を身に付けておくべきか、を考えることは非常に意義のあることで、主体的な進路選定に大きく役立つものと考えます。

本コンソーシアムは、これからの時代を担う生徒たちを応援する組織として、保護者や教師(PTA)と協力して、次代を担う〈人づくり〉活動を続けていく所存です。今後ともご支援をよろしくお願い致します

I. コンソーシアム会員による会議・イベントへの参加

1. 2025年6月20日(金)に授業見学会を兼ねた情報交換&意見交換会を開催しました。

① 当日の出席者

○ご来賓 (全国でも例のない本コンソーシアムに興味を持たれてご参加くださいました)
文部科学省初等中等教育局 産業教育振興室 大久保 享之 室長様、中尾様

○コンソーシアム会員 (正会員・賛助会員 50音順)
吾妻工業株式会社 専務取締役 溝口 浩二 様
株式会社ツツミ 人事部次長 寺澤 愛子 様
株式会社デリモ 小杉 係長 様(代理出席)
株式会社モリタ東京製作所 経営企画部 次長 小柳 雅俊 様
ポーライト株式会社 執行役員 橋本 浩二 様
個人会員 石田 貴之 様 前田 稔 (幹事・進行役)

○特別会員
一般社団法人埼玉県経営者協会 専務理事 廣澤 健一 様
埼玉県教育局県立学校部高校教育指導課 主幹 武部 景介 様、指導主事 高橋 秀夫 様

○大宮工業高校
岩井幸一 校長先生(新任)、大塚幸誠 教頭先生、手島裕司 教頭先生(新任) 他

② 主な開催内容

・授業見学 (3年生の課題研究授業の見学) ・ご来賓挨拶 ・参加者の自己紹介、会社紹介
・大宮工業高校の近況紹介 ・意見交換 等

I. コンソーシアム会員による会議・イベントへの参加

2. PTA理事会席上でのコンソーシアム会員による発表会

令和7年9月6日(土曜日) にPTAの理事会総会において会員企業3社から企業紹介と生徒の保護者に向けたメッセージを発表していただきました。

① 開催経緯

6月20日の会議席上における参加企業の紹介を聴いた会員から、「学校の近くにこういう企業があることを保護者は知らないと思うので、保護者向けに情報を与える機会を設定してほしい」旨の要望があり、6月の会議に参加した各社に趣旨説明と参加意向の打診をしたところ、ご快諾いただきましたので試行計画を立案して、PTAおよび学校側と協議の上、PTA理事会の時間枠内で試行開催いたしました。

② 開催内容・結果

当日は、株式会社デリモ様、株式会社モリタ東京製作所様、ポーライト株式会社様にご登壇いただきました。土曜日開催のため、参加企業の皆様にはご足労をおかけしましたが、他校には例のない独自のイベントを開催することができました。保護者の方の反応は概ね好評でした。詳細は、教育後援会会長の石田様(本コンソーシアム個人会員)のご尽力により作成いただいた別添の保護者アンケート結果をご参照下さい。

今後も会員の皆様のご要望に応じて、生徒と保護者が参加できる、会員の皆様を紹介する独自の機会を企画していきたいと考えています。

I. コンソーシアム会員による会議・イベントへの参加

3. 4科合同課題研究発表会

2026年1月30日に4科合同課題研究発表会が開催されました。この発表会は、3年生が課題研究(単位は「総合的な探究の時間」、大学のゼミのような形式で行う授業)の成果を生徒が発表する場です。機械科・電気科・電子機械科・建築科の4学科が一斉に、校内随所でプレゼンを行います。一般参加者の見学も可能で、生徒が日頃の研究成果を堂々と発表する貴重な機会です。コンソーシアム会員にも事前に案内がなされ、当日は何人かの会員が見学にお見えになり、生徒の勇姿に目を見張りました。

4. 「工業高校と地域による未来共創プロジェクト事業」報告会

2026年1月30日、4科合同課題研究発表会と同日に、大宮レイボックホール(市民会館おおみや)で標記発表会が開催され、本校の手島教頭先生から「大宮工業高校における企業連携と産業実務家教員との連携による授業への取組」と題した発表が行われました。本校生徒も課題研究発表会場からオンライン参加し、発表会の様子を紹介するなど元気な姿を見せてくれました。

この事業は、埼玉県教育委員会が、2024年度まで本校で実施していた「マイスター・ハイスクール事業」の発展形として、「工業高校と地域による未来共創プロジェクト事業」と銘打って、県内の4つの工業高校のコンソーシアム設立を目指してスタートさせたもので、本校はリーディング校として参加しています。当日は各校(教職員、生徒)から報告が行われましたが、本コンソーシアム会員も参加され、各校の発表を興味深く聴いていました。県教委設定の企画のため、本校の課題研究発表会と同日開催となってしまう、生徒も会員も両方に参加することができないことが残念でした。

II. コンソーシアム会員による協働授業

企業と連携した興味・関心を高める授業 7月

1年生建築科における最新測量技術の体験とドローン操作

連携協力：株式会社新和測機 埼玉県測量設計業協会

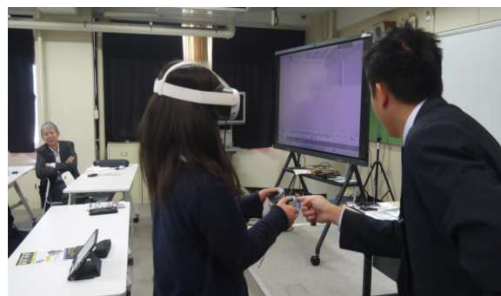


実社会で使用されている最新技術
を身近に感じる授業を
本会会員の株式会社新和測機様
のご協力で実施しました

最新技術を活用した企業との連携 10月

BIM (Building Information Modeling) を用いた建物の設計や施工管理の体験

連携協力：福井コンピュータ株式会社 平岩建設株式会社 株式会社新和測機



Ⅱ. コンソーシアム会員による協働授業

デザインを学ぶ 6月

古郡建設株式会社様との企業連携授業「デザインを学ぼう」

第一線で活躍されている古郡建設のデザイナーさんから、デザインの本質について深く学ぶ貴重な機会をいただきました。



生徒が望みそうなテーマを企業と学校で協議してテーマを選定します。
本会会員の**古郡建設株式会社様**から提案いただいた建築デザインの授業は生徒の目が一段と輝きました

会員企業の皆様には毎年、生徒の刺激になる多様なテーマをご提案いただき、実施して頂いています。有難うございます

建設業グローバル化体験 6月

令和の時代を働くものとして、求められる国際感覚の育成

連携協力：吾妻工業株式会社 株式会社ビルコ 大黒屋建材株式会社 株式会社カサタニ



昨今、外国人労働者との協業は技術者の重要なスキルになっており、高校生の段階から馴染んでおくことは貴重な経験です。本会会員の**吾妻工業株式会社様**のご協力で実現しました

Ⅱ. コンソーシアム会員による協働授業

産学連携授業「工程管理・ネットワーク図表を描いてみよう！」

社会人になる前にまずは自己のスケジュール管理がしっかりできるように、身近な工程管理表作成から学ぶ授業を、建築業界の多くの会社様のご協力のもと、実施しました。

グループワーク基礎編で与えられた条件は、“マルチタスク8項目”を時間内に工程表に仕上げること、応用編では、“マルチタスク12項目、その中には時間指定の作業も入る”という難しい工程管理表の作成に挑みました。



この授業は、本会会員である**吾妻工業株式会社様、株式会社新和測機様、古郡建設株式会社様**をはじめ、旭化成ホームズコンストラクション株式会社、伊田テクノス株式会社、サイカン工業株式会社、積水ハウス建設関東株式会社・千代本興業株式会社の各社様のご協力で行いました。皆様のご協力に感謝いたします。

II. (参考) 企業との協働授業

AIロボットを活用した企業との連携

AIロボットを用いた授業



AIロボットに触れ、プログラミングして自在に動かす経験は貴重です

本授業に使用したAIロボットは、令和6年度までのマイスター・ハイスクール事業にご協力頂いた企業様のご厚意により、令和7年に本校をはじめ、県内数校に数台ずつ設置されました。
有難うございました

その他にも企業との連携授業等を開催していますので、その一例をご紹介します。(敬称略)

企業によるスポット授業

- ・施工管理シミュレーション
- ・建設×サステイナブル社会(ワークショップ形式)
- ・住宅構造×エクステリア導入編
- ・インテリア導入編

企業施設見学

- ・旭化成ホームズ建設技術教育センター
- ・積水ハウス株式会社「Tomorrow's Life Museum 関東」

地域連携

- ・近隣の保育園二カ所に「木製おもちゃ寄贈式」を開催
- ・埼玉工業大学との『高大連携ワークショップ』参加

II. (参考) 地域施設との協働授業

課題研究への取り組み

鉄道博物館との連携事業 (工業高校生がつくる鉄道展)



技術指導：関東分岐器株式会社 岡部工場



地域連携の重要性や意義を理解する貴重な機会

大宮を代表する左記の2つの施設と連携した課題研究は、生徒の地域への愛着、市民意識の高揚および、成果物を一般の来訪客に説明する経験もでき、生徒の成長に大きく役立ちます

盆栽美術館との連携

建築科の先生の指導で、釘を使わずに木を組み上げる伝統技法の「組子細工」を駆使した行灯や屏風などの作品を作成・展示しました。
行灯を灯すと幻想的な空間が広がりました。



Ⅲ. 協働授業で得られた成果

企業や産業実務家教員との連携により得られた成果

- ▶ 令和の時代を働く人材に必要な最新技術に触れる機会
- ▶ 多国籍労働者と協働することの重要性
- ▶ 最新デジタルツールの活用方法を知ること教科書に書かれていない、最新技術を活用した興味関心を高める授業デザインの創出
- ▶ 最新技術を活用することでしか得られない新たな気づき

2026年1月30日「工業高校と地域による未来共創プロジェクト事業」報告会発表資料
「大宮工業高校における企業連携と産業実務家教員との連携による授業への取組」より転載

IV. 協働授業の課題と今後の取り組み

現状の課題

- ▶ 産業実務家教員による授業を充実させるための事前学習の充実
- ▶ 教職員の指導力向上に向けた意識づけ
- ▶ 技術の裏付けとなる理論の必要性
- ▶ 生徒主体による課題研究の実現
- ▶ 評価の方法

今後の取り組み

- ▶ 技術の裏付けとなる理論の充実
- ▶ 企業連携と高大連携の充実による更なる学びの深化
- ▶ 総合的な探究の時間や課題研究における探究的な学びを実現するため連携

2026年1月30日「工業高校と地域による未来共創プロジェクト事業」報告会発表資料
「大宮工業高校における企業連携と産業実務家教員との連携による授業への取組」より転載

以上

V. コンソーシアムの今後の取り組みについて

本コンソーシアムは、地域産業の持続的な成長を牽引する最先端の職業人材の育成を目的としており、人口減少を課題とする地域において、多くの場合において取り組まれています。しかし、本校のような都市近郊の高校における活動事例は多くありません。

また、会員制のコンソーシアムは、国立の高専に数校あるものの高等学校における事例はありません。

一般的な高校・高専におけるコンソーシアムは、産業界の講師による授業や講演などに活動も限られており、本校のような保護者を対象とした説明会は、類を見ない取り組みとなっています。

成人年齢の引き下げに伴い、卒業時には成人として送り出す高校の役割は、大きく変わってきていますが、社会構造や産業構造が急速に変わる中においてもまだ、学校任せの風潮が根強く残っているのが実情です。

社会の一部である企業や団体等が、学校とともに、新たな時代を担う生徒のために伴走支援することが当たり前の環境作りに本コンソーシアムは果敢にチャレンジしていきたいと思っています。

そのためには、学校、生徒、保護者、企業や団体の関係者が本音の意見交換を地道に積み重ねていくしかありません。

生徒は、これから変化の激しい時代を生き抜いていくこととなります。生徒と関わる大人たちが生徒の前で「前例がない」、「理想論だ」と否定することはできない状況が来ています。

会員の皆様からの生徒の成長につながる積極的な提案・提言をお待ちしています。

以上